

川崎市長賞受賞作品

「私の夢へ！ステップバイステップ」

長沢小学校 6年生 放生 侑希

今日は、二〇二〇年五月二〇日。また朝から新型コロナウイルスのニュースばかり流れています。ずっと家にいて、そんな日ももう二ヶ月以上。学校に行きたいのに行けない。友達と遊びたいのに遊べない。家族みんなでご飯を食べに行きたいのに行けない。「つらいなあ。」でも一番困っているのは、歌やダンスを教えてくれる教室に行けない事です。なぜなら私は歌やダンスがとても好きだからです。その教室で週に三回、歌やダンス、ミュージカルの練習をがんばっています。そして将来、「ミュージカル俳優になる」のが私の夢です。

私がミュージカル俳優になりたいと思ったきっかけは、お母さんと一緒にミュージカルを見に行った事です。友達が市民劇団に入っていて、その公演でした。そのミュージカルは三時間ととても長い公演時間でしたが、その世界にのめりこみ、あっという間でした。歌、演技、ぶ台そうちの全部が素晴らしくて、とても感動しました。そして「もっと見たい。自分もやってみたい。」と思いました。

元々、私は歌やダンスが好きだったのでその両方を含んだミュージカルは本当に魅力的に感じました。「ミュージカルをやりたい！」お母さんをお願いしました。お母さんは近所にある教室をすぐ見つけてくれました。今も通っている教室です。

まずはミュージカルの基礎となる歌やダンスをしっかり習うことになりました。ダンスの種類はジャズ、ヒップホップ、バレエと幅広くやります。先生は歌やダンスがとても上手で、「すごいなあ。早く先生みたいになりたいなあ。」と思いました。同じクラスの友達もとても上手な子が多くて驚きました。分からない所は教えてもらったり、優しくしてもらえて雰囲気も良いです。

そのダンス教室のメンバーと初めてダンスのステージに立った日は今でも忘れられません。ぶ台袖では、みんなが楽しくおしゃべりして緊張しないように自分達の出番を待っていました。しかし、出演時間が近づくにつれてしゃべっていた声はなくなっていき、緊張してきました。みんな先生に言われてきた事や本番前の最後の練習で確認した所、直した手の向きなどを思い返しました。そして、いよいよ本番。ぶ台に立った時スポットライトがまぶしくてまるで自分が主役のように感じました。その時の感覚は今でもはっきりと覚えています。たくさんのお客さんがいましたが暗くて良く見えず、視線は気になりませんでした。おどっている時は頭が真っ白になりましたが体にしみついているのか、しっかりおどることが出来ました。とても楽しくてあっという間に終わりました。「またステージに立ちたい！」そう思いました。

でも、楽しい事ばかりではありません。悔しい思い、つらい思いをする事もたく

さんあります。参加したダンスの大会では良い成績がもらえず、どうしたら上位をとれるのか分からなくなりました。先生からもっとアドバイスをもらおうか。もっと基礎練習をがんばってみようかな。体がかたいので柔軟を中心にやってみようか。また、歌の大会では第一次審査は合格しましたが、二次審査で不合格。いつもと違う場所で緊張してしまい、力が出ませんでした。自分は特殊なズバぬけている才能はないけれど努力すればきっと目標を達成できる。悔しい思いをして成長できると信じています。

歌やダンスはみんなで合わせるととてもかっこいいものになります。さらにダンスは個性が出るのでその個性を合わせて、みんなで作りに上げていく事がとても魅力的だと思います。ミュージカルではそこに演技が加わります。私はまだ、ミュージカルのクラスを取りはじめたばかりでぶ台には立っていませんが、今まで続けてきた歌やダンスをもっとがんばって必ず役をもらいたい。そして今度はミュージカルのぶ台に立ちたいと思っています。夢にようやく一歩近づいたかな。

私が大人になっている十年後はどういふ世界なのだろう。もう新型コロナウイルスは消滅しているのかな。今よりもAIが進んだ未来になっているのかな。どのような状況でも歌、ダンス、ミュージカルが無くなっている世界はありえないと思います。なぜならそれらは自しゆく中の今も私をいやしてくれる存在だし、元気になれるものだからです。きれいなハーモニーを聞くと心地良いし、アップテンポな曲で楽しい気分になれる。AIが発達しても色々なパフォーマンスで個性を出せるのは機械ではなく人間だと思います。演技も同じです。歌やダンスであふれる幸せな未来を想像しながら、そして私がみんなに幸せを与えられる存在になれば最高だと思います。